

第21回

人権ショートレター 入賞作品 発表



小・中学生の部

最優秀賞 「一つの言葉」

その言葉言っても大丈夫？言葉は取り消せない。その一言で誰かが傷つくかもしれない。悲しむかもしれない。後から後悔しても、言葉は取り消せない。一言を考えるだけで相手を傷つせずに済むかもしれない。

優秀賞 「いじめているという事実には自分では気付けない」

SNSの発達によって、新たないじめの手段が生み出されてしまった。誰が被害者や加害者になってもおかしくない。もしかしたら自分も誰かを傷つけているかもしれない。その気持ちを絶対に忘れないでほしい。

優秀賞 「なりたい自分」

ベビーカーを押している人、白杖の人、体の不自由な人、お年寄り。困っている人を見かけた時に「お手伝いする事ありませんか？」この一言が言える人間になれるといいねと母は言う。そんな大人になれるようになりたい。

優秀賞 「人の気持ちを考えて」

ひとことの悪口、1回の無視。あなたにとっては「たった」1回のこと。でも友達や相手にとっては「ずっと」消えない深い心の傷となる。今、自分の行動をふり返ってみよう。相手の気持ちを考えて行動していましたか？

佳作

「先生ありがとう」
「言葉」
「誹謗中傷」
「おじいちゃんへ」
「言葉の重み」

高校・一般の部

人間らしく生きること、差別や偏見に対して感じたこと、お互いの個性を認め合うことなど、「人権」を大切にすることを手紙に…。

全国から2,386通の応募がありました。入賞作品を紹介します。(佳作はタイトルのみ)

問合せ＝人権施策推進課(内線334)

最優秀賞 「ノーモアヘイトクライム」

私は日本で生まれて日本で育って日本語を話す。日本人ではないけれど、日本で暮らす一人です。それではだめですか？それだけでは共に歩む仲間になれませんか？ノーモアヘイトクライム！叫ぶ声の輪が広まるように。

優秀賞 「大切な仲間へ」

俺、アイヌなんだ。小学校6年生の時、クラスの人気者が突然みんなの前で告白した。けれども、彼が大切な仲間である事には変わりなかった。あれから12年。今もどこかで彼が彼らしく過ごせていることを祈っている。

優秀賞 「先生の涙」

先生が、見て見ぬふりの無関心をみんなに問いかけた。感じないのか、彼の心の痛み。考えないのか、彼の人としての気持ち。「ひとりじゃないぞ。人に負けるな」と、先生が咽び泣く姿が頭の奥に残っています。

優秀賞 「温かさは人を救う」

私が傷ついて学校に行けなくなって苦しんでいた時にずっと支えてくれた家族や先生や友達。今度は私が苦しんでいる人を助けられるような人になりたい。人の温かさは、苦しんでいる人を救うと知ったから。

佳作

「認知症の母へ感謝」
「戻ってきてな」
「バリアフリー」
「自分を見つめることから」
「かわいそうな人」